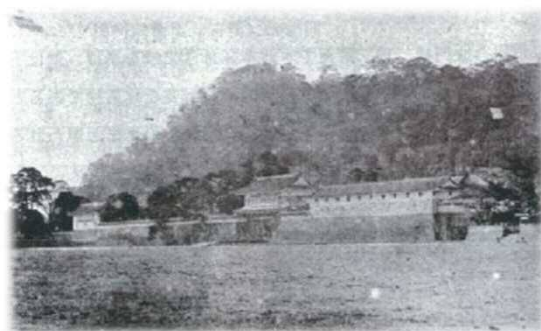


鶴丸城御楼門の建設

御楼門とは

鶴丸城は、慶長6年(1601年)頃に島津家第18代当主(初代藩主)家久が建設に着手した島津氏の居城で、本丸・二の丸、下屋敷が並び、本丸の入口に楼門があったが、明治6年(1873年)の火災で居館とともに焼失



建設に向けた動き

平成25年4月～ 御楼門復元検討委員会による「復元に向けた方向性の提言」

鹿児島経済同友会を中心とする「御楼門復元検討委員会」から、経済界や個人による募金などを大きな財源とする民間主導による復元計画を盛り込んだ提言がなされ、その後発足した「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が、平成25年12月以降、企業や個人に対して寄附金の募集を開始

平成26年3月 県による「鶴丸城楼門復元協力寄附金基金」の設置

県は、鶴丸城の楼門を復元するために寄附された鶴丸城楼門復元協力寄附金を適正に管理し、これを活用して楼門の復元に必要な経費の財源に充てることを目的として、「鶴丸城楼門復元協力寄附金基金」を設置

平成26年7月 寄附金額が目標額を達成

寄附金額が、目標の4億5千万円を達成
御楼門復元実行委員会は、引き続き寄附金を募集

寄附金額の状況 5.4億円

(平成30年11月末)

[内訳] 法人 4億9.3千万円
個人 4.9千万円

<御楼門建設の意義>

- 民間が主導する新たな官民連携のモデルの一つ
- 歴史、文化、建築技術の継承などのほか、新たな観光拠点としても意義
- 御楼門は、文化施設等が集積する「かごしま文化ゾーン」の充実や、回遊性の向上等に寄与すると期待されており、鹿児島の新しいシンボルとなり得る

民間主導の新たな官民連携事業として

平成27年2月

鶴丸城御楼門建設協議会 設立

鶴丸城御楼門建設協議会

目的：鶴丸城の御楼門を建設することを目的とし、関係法令の諸手続及び建設に必要な事業を行う。

構成：県、鶴丸城御楼門復元実行委員会 ※オブザーバー 鹿児島市

設立：平成27年2月18日

- 会長 鹿児島県知事 三反園 訓
- 副会長 鶴丸城御楼門復元実行委員会 委員長 玉川文生
(鹿児島経済同友会 特別幹事)
- 委員 【実行委員会】
 - 鹿児島商工会議所 副会頭 湊本 逸雄
 - 鹿児島経済同友会 特別幹事 永田 文治
 - 県中小企業団体中央会 副会長 有馬 純隆
 - 鹿児島経済同友会 常任幹事 藤安 秀一
- 【県】
県民生活局長，教育庁教育次長，土木部建築技監，
会計管理者(兼)出納局長
- 事務局 県楼門等建設推進室

<専門家委員会等の設置>

- 協議会事業への指導・助言を得るため、歴史・建築・考古学等の専門家による「専門家委員会」を設置
- さらに、基礎工法の検討及び建設過程における課題等を検討するため、専門家による「技術検討会議（構造部門，建築・意匠部門）」を設置



御楼門完成イメージ図

協議会における取組状況

<H27年度>

- 県指定史跡の現状変更許可の前提となる「鹿児島(鶴丸)城跡保存活用計画」の策定
- 建設に必要な大径木の調達に向けた調査
- 建設に必要な大径木等の調達(～H29)
- 建設工事の基本設計・実施設計(～H28)

<H28年度>

- 県指定史跡の現状変更許可に係る申請手続
- 建築基準法の適用除外に係る申請手続

<H29年度>

- 技術提案方式による建設工事施工者の選定，工事請負契約の締結
- 木材の調達・乾燥・製材，瓦の紋様や金物等の検討(～H30)

<H30年度以降(予定)>

- 起工式の開催(H30.9.2)
- 上棟式の開催(2019.8頃)
- 完成(2020.3)

H29.9 発注

H30.9 起工

2019.8 上棟

完成予定
2020年3月

具体的な取組状況(H30年11月現在)

1. 建設に必要な大径木等の調達

<大径木の調達状況>

- ・ 鏡柱などの主要な柱に使用するケヤキの大径木について、建設協議会が工事発注までに12本を調達(H27~29)
- ・ 残り的大径木は、工事発注後、工事施工業者においてすべて調達済み
- ・ 現在、一次製材を終え、乾燥中

<岐阜県によるケヤキの提供>

- ・ 薩摩藩の宝暦治水の偉業を縁に本県と姉妹県盟約を結ぶ岐阜県では、御楼門に岐阜県産ケヤキを提供する「鹿児島県との友好の証プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、平成29年10月、ケヤキの贈呈式及び受領式を開催
 - ※ 正面大扉の部材として使用予定
 - [贈呈式] 平成29年10月14日 陣場野公園(岐阜県関ヶ原町)
 - [受領式] 平成29年10月21日 かごしま県民交流センター(鹿児島市)

<湧水町によるケヤキの提供>

- ・ 島津義弘公に縁のある湧水町から、樹齢100年以上もある町有林のケヤキ15本を無償提供するとの申出をいただいたことから、平成29年12月4日、湧水町役場及び湧水町有林内において、ケヤキの贈呈式・伐採式を開催

岐阜県「鹿児島県との友好の証プロジェクト」ケヤキ贈呈式(10月14日、岐阜県関ヶ原町陣場野公園)



[写真左]ケヤキ目録の贈呈(左から:古田岐阜県知事,三反園知事,県薩摩義士顕彰会 島津修久会長)
[写真右]贈呈された岐阜県産ケヤキ(長さ8m,周囲4m,樹齢300年以上)

岐阜県産ケヤキの受領式(10月21日、かごしま県民交流センター)



[写真左]感謝状の贈呈(左から:三反園知事,松永岐阜県海津市長)
[写真右]来賓による岐阜県産ケヤキの除幕
(左から:玉川実行委会長,島津修久氏,三反園知事,松永海津市長,柴立県議会議長,工藤岐阜県審議監)

湧水町ケヤキ贈呈式・伐採式(12月4日, 湧水町役場・町有林内)



[写真左]ケヤキ目録の贈呈 (左から:池上湧水町長, 御楼門建設協議会 藤安委員)

[写真右]伐採式の鋸入れ(左から:御楼門建設協議会 藤安委員, 池上湧水町長)

2. 建設工事の施工業者選定, 工事発注

<建設工事の施工業者の選定>

- ・ 建設工事は可能な限り史実に忠実な復元とし, 工事施工業者には, 文化財に対する理解, 大径木の調達や伝統的工法による施工能力, 景観や観光客への配慮等が必要となるため, 技術提案(公募)方式により施工業者を選定
- ・ 技術提案書を提出した2者について, 審査会を経て選定した業者と請負契約締結

【工事請負契約について】

【相手方】江藤・丸久・宇都特定建設工事共同企業体(JV)

代表者:株江藤建設工業(鹿児島市)

構成員1:丸久建設(株)(鹿児島市), 構成員2:株宇都組(薩摩川内市)

【工期】平成29年9月28日~平成32年3月31日 【契約額】704,160千円

3. 建設工事の進捗状況

<技術検討会議の開催>

建設工事を適切に進めるにあたり, 平成30年2月, 「鶴丸城御楼門建設工事に係る技術検討会議(建築・意匠部門)」を新たに設置し, 瓦の大きさや紋様, 金物等の意匠の決定など, 建築の過程における課題や詳細な仕様等について, 発掘調査等の成果を踏まえ, 専門家の指導・助言を得ながら検討を行った。

■ 工事の進捗状況(主なもの)

【木工事】製材, 乾燥, 養生



一次製材後の木材検査の様子

【左官工事】二階漆喰壁に使用する荒壁土作り



名山小学校児童を招いての壁土作り体験会の様子(日置市産の土を使用)

【屋根工事】瓦の紋様や鬼瓦の型の検討・決定



復元する瓦の原型となる軒丸瓦，軒平瓦



復元する鬼瓦の原型

■ 建設工事起工式の開催（平成30年9月2日）



来賓，工事関係者約120名が参加



三反園知事ら関係者が工事の安全を祈願

■ 御楼門完成に向けた気運の醸成

① 工事過程の公開

- ・ 定点カメラで撮影した画像を配信（H31. 1月頃開始予定）
- ・ 見学者用通路の設置（H31. 8月頃予定）

② イベントの開催

- ・ 地元小学生を対象とした壁土練り体験会（H30. 7. 18開催）
- ・ 瓦への記名会（2019予定）

③ 景観に配慮した工事期間中のイメージアップ

- ・ 石垣と漆喰壁をイメージした仮囲い（H30. 6月施工）
- ・ 完成イメージをプリントした素屋根のライトアップ（2019. 7月頃予定）



建設中の御楼門を覆う素屋根
：夜間ライトアップ（イメージ）
（2019.7月頃～）



素屋根内に設置する見学者用通路（イメージ）
（2019.8月頃～）